

白駒妃登美の
なでしこ
歴史物語
9

日本の悠久の歴史をひもとけば、そこにはわが国を支えてきた「なでしこ」たちの存在があります。福岡の人気歴史家・白駒妃登美さんに、そんななでしこたちの知られざる歴史物語を紹介していただきます。

博多の歴女 しらこまひとみ
白駒妃登美

これぞ、夫婦関係の妙

——良妻賢母の鑑・前田まつ①

「加賀百万石」の礎を築いた夫婦

江戸時代に最大規模を誇った藩はどこか、皆さんはご存じでしょうか。それは「加賀百万石」で有名な、北陸の加賀藩です。ではこの藩の礎を築いたのはどんな人物で、なぜそれほど大きな領地を二百六十年にわたって保てたのでしょうか。

加賀藩の祖・前田利家は上司からはかわいがられ、部下からも慕われた人望の厚い武将でしたが、若いころは派手な身なりを好む「かぶき者」といわれ、短気で血気盛んなところもあつたといわれています。

二十二歳のある日。織田信長に仕えていた利家は、武士が髪を整える時に用いる筭を同僚に盗まれてしまいます。当時、物を盗まれるというのは武士にとって恥。です

から利家は体面にかけて彼を討ちました。しかしそれは主君・信長の許しを得たものではなかったため、利家は逆に信長の怒りを買ひ、追放されてしまうのです。

正室・まつとの間にはすでに子供もいて、足掛け三年にも及ぶ浪人生活は困窮の極みだったようです。それでも利家は信長に忠義を尽くし、密かに参戦した「桶狭間の戦い」では一番首をとり、その後も武功を上げることで信長からの信用を勝ち取り、忠臣としての評価を高めていったのでした。

やがて、そこにいるだけで場の空気が安定し、周囲を勇気づける、そんな温かき概ある武将に成長した利家。若いころは短気で血気盛んだった彼が、なぜこれほどの変貌を遂げることができたのでしょうか。私は、この背景には妻・まつとの夫婦関係が影響していると考えています。

前田まつ (1547-1617)
前田利家の従兄妹として生まれ、数え12歳で利家に嫁ぐ。実子が11人。利家の死後は出家して芳春院を名乗る。享年71は当時としては長命。

【イメージイラスト】アオジマイコ